

平成29年1月21日（土）の「仏教女性の集い」

この冬一番といわれる寒波の中、ありがたい事に「仏教女性の集い」の今日は穏やかな日となりました。

今月の仏教女性の集いでは、年の初めにふさわしく同友の〇様からの「仏教女性の集いの場で・同友に見守られながら」と望まれて、近藤先生にお願いされていた阿弥陀様の開眼法要が執り行われました。

多くの方は開眼法要の場にはなかなか出会う機会がありません。嬉しいご縁をいただきました。

法要に先立ち、近藤先生から「開眼」についてのお話がありました。

私は「開眼」と聞くと仏様やご先祖様の居ていただく場所として聖水で清め、お性根を入れその場所を明らかにするというイメージが強かったのですが、近藤先生は「開眼とは魂を入れるだけではなく、私たちにも開眼（気付く）させてくれる」機会だとおっしゃいました。



また、ともすれば「本来の自分に気付かず、当たり前と思い、その中に入り浸っている」と言われ、

至道無難禅師の「生きながら死人となりて なりはてて 想うがままにするわざぞよき（自分のエゴ・私欲を無にしてしまう、これを実現することができれば、想いのままに振る舞ったとしてもその行い・わざは良いものになる）」という御歌で自分の内面を見つめ成長させる大切さを話されました。

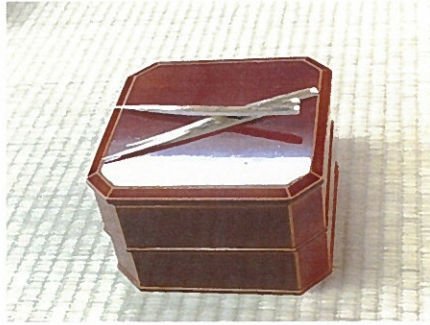
「気付きなさい。自分の内側に向かって目を開く事が大切」「開眼の意識を通して我々の日常に気付き振り返る」ともおっしゃいました。（「 」内は近藤先生のお言葉）

確かに仏様は常に私たちのすぐ傍にいて見守ってくださいますが、私たちの方が気付き・向かい合おうとしなければ何事も起きません。

情けないことに日常に流される自分がいます。少しお話からずれますが、私の檀那寺の前住職が、ご詠歌をご指導下さった時に「ご詠歌の中によく南無阿弥陀仏が出てきますが、一回

でも唱える回数が増えるようにでしようね」とおっしゃいました。このことでも判るように私たちの周りには「気付く」機会はたくさんあります。少しでも日常に流されず、気付いていきたいものですね。

(参加者感想 K. I)



今日のお菓子は新年にふさわしく花びら餅でした。



修復状況の資料を基に話が弾みます



開眼された阿弥陀様

次回の「仏教女性の集い」は平成29年2月18日です。

「仏教女性の集い」は毎月第3土曜日、1時～4時
参加費 1,000円 宗教・宗派は問いません。
条件は女性であることだけです。
多数のご参加お待ちしております。
市バス[知恩院前]下車、東へ徒歩 150m
『吉水尼僧庵』(旧尼僧道場跡)で開催致しております。
問い合わせは 隆彦院 075-561-7581 まで



「仏教女性の集い」の様子は浄土宗吉水会のホームページに掲載しております。